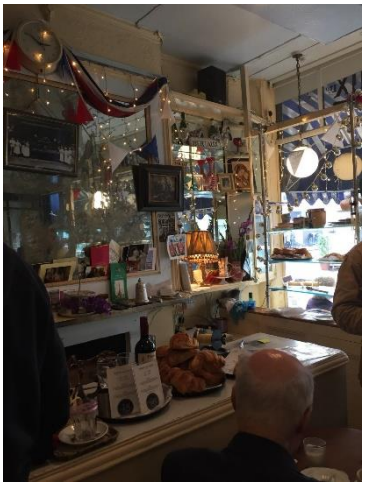
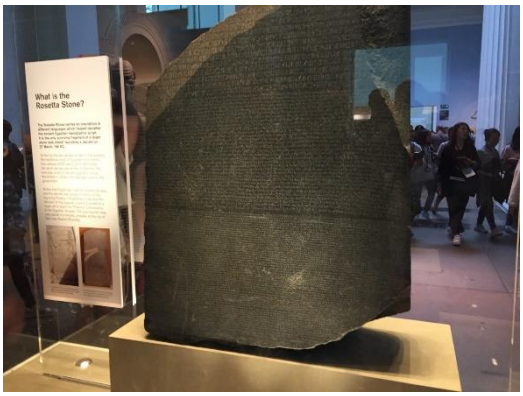
Raymond Murphy Scholarship で頂いた、二週間イギリスでの語学研修は、私にとってとても有意義な経験になりました。特に自分のやりたいことを改めて発見することができ今後の人生の方向性も考えられる良い機会となりました。

今回、ケンブリッジにある Bell school という語学学校に二週間通いました。世界中から集まったこの学校の生徒たちは、皆目的は違えど、英語を勉強したいという強い意志を持った人たちの集まりでした。そしてその環境に自分もたくさん刺激を受けて、英語学習へのモチベーションが今まで以上に上がりました。皆それぞれ違ったアクセントやクセを持ちながらも積極的に自分の意見を発信しようとし、お互いの意見を理解し合おうとする留学生たちの姿を見て、最初はなかなか発言できなかった私も刺激を受け、自分もクラスで意見を発信したいと思うようになり、二週目には実現できました。授業は班別にトッピックスについてディスカッションしたり、ビデオを見て考えてパートナーと呼ぶ相手と 1 体 1 で討論したり、日本の学校ではあまり味わうことのないとても盛り上がるものでした。先生方は、とても優しく、面白い先生ばかりで、毎回の授業が楽しみでした。どの先生も、生徒を惹きつけるのが上手く、生徒全員が授業に引き込まれていました。また、放課後にはアクティビティという課外活動がありました。私は、目隠しをしたままアイスクリームを食べ、味を当てるというゲームに参加しました。友達と盛り上がりながらアイスクリームを食べることはとても楽しかったです。出身国によって味の好みやリアクションが違っていたのもとても面白かったです。



ホームステイ先での生活も充実したものでした。ステイ先にはコロンビアから来ていた大学生とアゼルバイジャンから来ていた大学生の二人の留学生がいました。彼らとは、毎日、夕食の時間やリビングで過ごす時間を共有したので、留学期間中一番たくさん会話した仲間です。一緒に映画を見たり、ちょっと外に出かけたりする中で、楽しみながら、日々、自然と英語が上達していくのが実感できてうれしかったです。また英語の上達だけでなく、お互いの国の文化や教育システムについての違いなども話し合い、異文化交流ができたのもとても良い経験となりました。



また、週末は時間があったのでかねてから行きたかったロンドンに一人で行ってきました。ホームステイ先からロンドンまでは電車で 2 時間ほどでした。海外で一人で遠出する機会は今回が初めてだったので、新しい体験に心が躍りました。見ているだけで惚れ惚れする素敵な建物の数々、様々な国からやってきた観光客で賑わう大通り。写真でしか見たことがなかった場所に自分が来ていることが夢のようで、なんだか不思議な気持ちでした。多くの場所を一人で周る中で、駅で迷って駅員さんに質問したり、知らない人に写真を撮ってもらうのをお願いするなど些細な事ですが、いろんな人と言葉を交わす機会がありました。その時に、自分の英語でも意外と通じるんだなと実感でき自信がつきました。私は演劇部に所属していたこともあり演劇が大好きなので、ロンドンで劇場に行くことも楽しみにしていました。そして、実際にレ・ミゼラブルを鑑賞できました。とても素晴らしく一生の思い出に残るようなものでしたが、英語の歌についていけず意味がわからないところも多くありました。だから、もっと英語を勉強してわかるようになってからここに戻ってこようと心に決めました。

私は今回の Essay contest に出した essay の中で、Smile と Grit が今後のグローバル社会で必要だと書いたのですが、今回の語学研修を通して改めてそうだと実感しました。母国が同じではない人と話す時、どうしても勇気がでなかったり遠慮してしまうこともあると思うのですが、その時に笑顔が大事になります。誰しも笑顔で話しかけられたら嫌な思いはしないし、笑顔で応えられると仲良くなりたいな、と思うようになります。また、グローバル社会で欠くことのできない英語。その英語を学習していくときも、Grit がないとできません。Grit とは日本語で言うと、粘り強さややり抜く力、のように訳されます。語学学習には終わりがありません。だからこそ自分で学びたいという強い意志を持ち続けなければならない。私は絶対に世界に出て活躍できる人になりたい、そのためにはまず英語をやらなきゃ！英語を話せるようになりたい！というその気持ちこそ、英語学習において大切なことだと私は思います。教科としての英語ではなく、コミュニケーションツールとしての英語を学んでいくには、パッションが必要になるのです。これからも、Smile と Grit を欠かさないで、前進していきたと思います。

この二週間の経験を経て、私は自分に対して以前より自信を持てるようになりました。学校やホームステイ先、街中での会話から、自分も英語でコミュニケーションをとることができるんだ、自分の今までやってきたことは、このレベルまで到達してるんだ、と知ることができる大変良い機会となりました。日本で過ごしているうちはなかなか自分の客観的な英語力を知る機会がないので、自分のやっている勉強法は正しいのか不安になることも多いのですが、この語学研修で今の自分に合った英語学習法についても新たに学べ、これからの学習に活かしていきたいと思いました。また英語の面だけでなく、知らない土地で一人で行動し、目的を達成したことで、自分の行動力や対応力も身についたなと思います。新しい場所で何かするということは不安もありましたが、実際はそれよりもワクワクが上回っていて、そんな新しい自分に出会えたことが嬉しかったです。この経験から、もっと他の国にも行ってみたいと強く思うようになりました。

しかし、自分の英語に少し自信がついたと言っても、まだまだ足りない部分が多いのが現状です。これからは、今まで以上に本気で英語に向き合っていき、コミュニケーションツールとして自分の武器になるようにしていきたいです。そのためには目の前にあることを、一つ一つ全力で取り組んでいかなければならないと思います。これは英語に限ったことではないですが、自分のやりたいことを達成するためにやらなければならないことを、きちんとクリアしていこうと思います。また、異文化を持つ人たちとの関りをこれからも絶やしたくないと改めて感じました。他の地域の文化を聞くのも興味深いし、日本の文化を紹介し、驚かれたりすごいと言われるのも嬉しいです。これからは、より日本について知識を深め、もっと日本のことを発信していきたいと思うようになりました。そして、将来は、日本にいながらも世界に向けて日本を発信していけるような存在になりたいです。

今回このような機会を得て、すばらしい経験をすることができたことを誇りに思います。この素晴らしい機会を与えてくださった、ケンブリッジ大学出版の皆様、Raymond Murphyさん、誠にありがとうございました。